



①



②

①_翁 ②_荒形 ③_幣束や面などの小物
④_女形 ⑤_若人



③



④



2



3

1_迫力ある舞いとせりふ。場内が一つになる 2_団体の部で優勝した達古袋神楽の「岩戸開き」 3_太鼓の部で表彰された遊佐紘子さん(18)の「バチ車」 4_今年もまた熱心な観客が大勢訪れた 5_石川絢音ちゃん(3つ)は祖父の阿部繁行さん(62)とはやし方で共演



5



4



1

巖美の里で文化を奏でる「岩手県南宮城県北神楽大会」

時を超え、先人の熱気そのままに

会場に「ダン、ダン、ダンダンダン」と響く太鼓の音。「センヤハー」と流れる神楽歌。これから始まる熱い物語への期待が高まる。

「第44回岩手県南宮城県北神楽大会」(同実行委員会主催)は5月3日、巖美中学校で開かれ、市内外から訪れた400人を超える神楽ファンでにぎわった。

今年は一関市、奥州市、宮城県、栗原市、登米市から13団体が出演。1団体30分の持ち時間で演技を行い、団体の部、個人の部(太鼓、翁、荒形、女形、若人)で日々、研鑽を積んだ技を競った。

同大会実行委員会の茂庭

貞委員長は「この大会は南部神楽の神髄。素晴らしい演技を、ゆっくり鑑賞してほしい」とあいさつ。

各団体は「岩戸開き」や「宝剑納め」などの神話を題材にした演目や「弁慶安宅の関」や「五條の橋」などの源平合戦を題材とした演目を披露。息のあつた舞で客席を魅了した。

毎年、訪れている青葉町の多田キエ子さん(86)は「南部神楽は物語性があつて楽しい」と盛んに拍手を送っていた。

達古袋神楽の三浦一さん(60)は「演じきつて、気持ちよい。これからも伝承に励みたい」と大粒の汗をぬぐい、晴れ晴れとした表情を見せた。

出演団体と演目

- 大原神楽保存会(奥州市) …「一の谷」
- 川北神楽保存会(栗原市) …「宝剑納めと宝剑盗み取り」(3位)
- 東北まぐら神楽(栗原市) …「石童丸 父を尋ねて高野山」
- 達古袋神楽(一関市) …「岩戸開き」(優勝)
- 牧澤神楽保存会(一関市) …「高天上市」
- 長下田神楽保存会(登米市) …「牛若丸金童丸吉次兄弟鏡が宿の場」
- 駒堂子供神楽(栗原市) …「岩戸開き」
- 本郷神楽保存会(一関市) …創作神楽「玉取姫」
- 鶯澤神楽保存会(栗原市) …「弁慶安宅の関」(2位)
- 本宮神楽保存会(登米市) …「鶏舞」
- 南沢神楽(一関市) …「屋島合戦」(継信最後の場)
- 富沢神楽保存会(一関市) …「五條の橋」
- 栗原神楽(栗原市) …「安倍保名捕われの場」

神楽の楽しみ方

太鼓や鉦の音、躍動感あふれる舞。独特のせりふによって物語が進行する南部神楽は、さながら和製オペラ。

舞い手は「一の谷」や「五條の橋」をはじめとする源平合戦や「曾我兄弟の仇討ち」「信田妻」などの物語を揚々とした声で描いていく。また、演目によって、派手な立ち回りと細かな仕草を使い分ける。

はやし手はリズムミカルな太鼓や鉦、神楽歌で舞い手を引き立てる。舞台裏を支えるスタッフの演出も見逃せない。

舞い手が物語の終わりを告げると、客席から大きな拍手が送られる。身近な地域で得られる一体感。これこそが神楽の魅力ではないだろうか。

南部神楽を知る

南部神楽に登場する舞い手は翁、荒形、女形、若人に大別できる。

翁は白いひげを生やした面をつけ、老いた神や老人を演じる。荒形は荒ぶる神や荒武者を、女形は振り袖などをまとい、女性役を優雅に演じる。若人は頭に「サイ」をつけ、成年や若武者を演じる。



生き生きと舞う八木山中の生徒たち (写真提供: 岩手日日新聞社)

神楽の魅力を伝えようという動きも盛んだ。

達古袋神楽は5月14日、農家民泊に参加した仙台八木山中の生徒に「岩戸開き」を披露し、「鶏舞」の足運びや手の動きを指導した。同会の小岩恭一さん(65)は「真剣に神楽に取り組んでくれる子供たちがいて嬉しかった」と感想を話す。

地域に伝承される南部神楽は、一関が誇る地域文化の一つとして、時代を超えて愛されている。

手には、それぞれ扇や「幣束」を持って舞うことが多い。

色鮮やかな衣装が多く、役によっては、刀ややりを使うこともある。

はやし方は、胴取りと呼ばれる大きな太鼓を打つ人と手平鉦をたたく人のことで、笛を用いる団体もある。

※幣束 紙垂を竹または木の幣串に挟んだもの。神楽の祭祀で用いられる。